

# 2025年春 APAQG ジャカルタ会議について

## 1. はじめに

APAQG（Asia-Pacific Aerospace Quality Group：アジア太平洋地域航空宇宙品質グループ）はIAQG（International Aerospace Quality Group：国際航空宇宙品質グループ）傘下の地域組織であり、JAQG（Japanese Aerospace Quality Group：日本航空宇宙品質センター）はその一員として、IAQGの活動戦略目標に対応したAPAQG内の活動方針決定や、IAQGへのAPAQG/JAQGの意見提言においてリーダーシップを発揮している。

2025年3月12日～14日にかけてインドネシア国ジャカルタで、定期APAQG春会議を開催した。また、会議に先立つ3月11日および最終日である3月14日の午後に、現地インドネシアの企業等を対象に、IAQG/APAQGの活動内容紹介やICOT（International

Certification Oversight Team）スキームの説明、JAQG及び日本航空宇宙工業会（SJAC：Society of Japanese Aerospace Companies）設立当時の状況などについて説明を行った。

開催場所はジャカルタ市内の官公庁街にあるHotel Borobudur Jakartaである。

インドネシアは国民の9割がイスラム教徒で2月28日から3月30日までラマダン（断食）の期間であり、今回はラマダン期間中の会議開催となった。そのため、会議途中のコーヒープレークやランチについて現地の方は参加できない形式となり、会議開催時期と場所の選定に当たっては現地の風習、特に宗教的な制約等について事前の確認が必要であると感じた。

以下、内容について報告を行う。



Hotel Borobudur Jakarta

## 2. 会議の概要

### 2.1 APAQGジャカルタ会議

#### (1) APAQGジャカルタ会議の参加国及び参加組織

APAQGジャカルタ会議には、アジア・太平洋地域の航空宇宙関係41組織が参加した。

##### ア 日本

三菱重工業株式会社、川崎重工業株式会社、株式会社IHI、株式会社SUBARU、日本電気株式会社、株式会社IHIエアロスペース、日本航空宇宙工業会（SJAC）、（オンライン）三菱電機株式会社

##### イ 中国

AECC（Aero Engine Corporation of China）、AVIC（Aviation Industry Corporation of China）、（オンライン）COMAC（Commercial Aircraft Corporation of China）、Honeywell China、（オンライン）Boeing Tenjin

##### ウ 韓国

KAI（Korea Aerospace Industries）、KAL（Korean Air Aerospace Business Division）、（オンライン）Hanwha Aerospace、LIG Nex1、Hanwha Systems、KAIA（Korea Aerospace Industries Association）

##### エ シンガポール

UTC（United Technologies Corporation）、AAIS（Association of Aerospace Industries（Singapore））、（オンライン）Liebherr-Singapore Pte Ltd.、（オンライン）SAFRAN ELECTRONICS

##### オ インド

（オンライン）Mahindra Aerostructures Pvt Ltd.、（オンライン）HAL（Hindustan Aeronautics Limited）、（オンライン）TASL（TATA Advanced Systems Limited）、（オンライン）Moog India、（オンライン）Expleo Technologies India Pvt Ltd.、（オンライン）

Bharat Forge、（オンライン）Kun Aerospace、（オンライン）Dynamic Technologies Limited、Airbus India（新メンバー）、（オンライン）NABCB（インドのAB。ゲスト）、（オンライン）TUV-SUD South Asia Pvt Ltd（インドのCB。ゲスト）

##### カ インドネシア

IAe（Indonesian Aerospace）、GMF AeroAsia（新メンバー）、Ministry of Industry（Kementerian Perindustrian）（ゲスト）、PT LEN（ゲスト）、BRIN（Badan Riset dan Inovasi Nasional）（ゲスト、インドネシアの宇宙機関）

##### キ 台湾

AIDC（Aerospace Industrial Development Corp.）

#### (2) 評議会における承認及び決定事項

以下のとおりである。

- 2025年秋季セクターミーティング開催地：2025年9月9～12日にマレーシアで開催する。
- IAQG 賛助会員：エアバス・インドアとGFMエアロアジアが新規IAQG賛助会員として承認された。
- 会計報告：2024年会計報告が承認された。
- 議事録：第42回APAQG東京会議議事録が承認された。

#### (3) 評議会（Council Meeting）概要

評議会では、今回のホストであるIAeのLuqman氏のあいさつ、投票メンバーの確認、前回議事録の確認、APAQG内の各グループ活動状況の報告などが行われた。項目ごとの詳細は以下に示す。

#### (4) 評議会以外の活動

評議会に先立ち、APAQG SF（Space

Forum) 会議、COTチーム会議、Early Career Project会議が開催され、それぞれの会議の概

要も評議会で報告された。



評議会の様子



評議会後の集合写真 (APAQGメンバー)

## 2.2 評議会の概要

### (1) 開会

APAQG バンコク会議は、APAQGセクター・リーダー 上原 美基氏 (川崎重工業株式会社) の開会宣言および今回のホスト社である現地

インドネシアのIAe社のCecep Nurul Ikhsan氏の歓迎のあいさつをもって開始され、同じくIAe社のMuhammad Luqman氏によりIAe社の紹介がなされた。



上原セクターリーダー  
(川崎重工業株式会社)



Cecep Nurul Ikhsan氏  
(IAe社)



Muhammad Luqman氏  
(IAe社)

なお、Cecep氏は技能実習生として日本で2年ほど働いた経験があり、日本語のコミュニケーションもこなせ、滞在中は大変お世話になった。

以降、APAQGのサブリーダーである株式会社IHIの陶山氏の進行により会議が開催された。



陶山氏  
(株式会社IHI)

(a) IAQG EC/OPC (Executive Committee/Operation Council) 活動報告  
(上原 美基 APAQGセクターリーダー  
(川崎重工業株式会社))

2025年IAQG活動方針及び基本的価値観を共有した。「デジタルへの移行」「ステークホルダーとの関係強化」を軸とした、規格デジタル化やOASIS認証データベースの利活用などの2025年活動計画を総括し、APAQGメンバーの積極的な関与を依頼した。また、最新の9100規格改訂の進捗状況及びIAQG会議の各活動チームによる戦略検討会議 (Operation Council) 活動状況を報告した。

(b) OMS (Operation Management System) 報告  
(城福 隆司 APAQG事務局 (SJAC))

IAQGのProcedure、APAQGのCharterおよびProcedureの最新状況について報告した。IAQGとAPAQGの間で不整合が生じている会員資格については近日中に規則改正を行う予定であることを紹介した。



城福氏  
(SJAC)

(c) Membership報告  
(服部 明子 APAQG事務局 (SJAC))



服部氏  
(SJAC)

IAQGのコミュニケーションプランとして、戦略会議が作成したビデオの紹介、OASISの新機能であるOASIS-Insightの発行予定、IAQGアプリケーションなどについて紹介した。

またこれまでIAQGの9100チーム内のサブチームであったAIMM (Aerospace Improvement Maturity Model) チームがAIMM Communityとして独立したチームとするにあ

たり、各セクターのリーダーを募集していることが紹介された。

(d) IAQG Performance (パフォーマンス)  
活動報告  
(池崎 隆司 APAQG Performance チーム  
リーダー (株式会社 IHI))



池崎氏  
(株式会社IHI)

IAQGのPerformanceチームの活動状況が報告された。Performanceチームには、2024年のEarly Careerメンバーである3名を含めて6名がAPAQGから参加していたが、このジャカルタでの会議で2024年のEarly Career活動は終了し、代わって2025年からはインドからEarly Careerとして1名が参加するとのことである。

次いで、毎年実施しているIAQGメンバー会社へのサーベイ結果について概要が報告された。APAQGのメンバー会社における、基本的QMS (Quality Management System) 要求(9100、9100および9120)の認証会社数はこの3年間で大きな変更がないことが発表され、今後、各会社に要求するQMSを厳格にしていくような9104-1の改訂が実施された後の状況もモニターをしてゆくことが報告された。また、サーベイで寄せられた主なコメントが紹

介され、本サーベイ結果の活用状況をより一層周知していくこと、IAQGのHP（Home Page）に対する改善を期待する声が多いことをIAQGのITチームに報告して改善を促す等が報告された。

なお、池崎氏のプレゼンテーションには毎回現地の言葉が取り込まれており、参加者にも大好評を博している。

(e) APAQG COT（APCOT：Asia-Pacific Certification Oversight Team）活動報告  
（Sunghwan Lee APAQG COTサブリーダー（Hanwha Systems社））

今回、APCOTのリーダーである株式会社IHIの小栗氏が都合により欠席となり、APCOTのサブリーダーであるSunghwan Lee氏より報告がなされた。

まずAPCOTの構成について紹介がなされ、事務局として、新たにKAIAのArim KO氏が着任したことが紹介された。ついで、APCOTの2024年活動実績、2025年活動予定、9104-1、-2、-3、9101のSDR（Sector Document



Sunghwan Lee氏  
（Hanwha Systems）

Representative）の交代予定について報告がなされた。従来、JAQGメンバーのみでこれらを担当していたが、韓国も一部を負担する形で9104-2のSDRについては将来的に韓国のメンバーが就任する予定であることが紹介された。

また、インドのRMC（Registration Management Committee）がEAQG（European Aerospace Quality Group）に承認される形で



前日に行われたAPAQG COTチーム会議の様子

立ち上がり、今後APAQGに移行される予定であることが紹介された。

(f) IAQG MRO (Maintenance, Repair and Operations) 分科会活動報告  
(David Tan (IAQG MROチーム APAQG リーダー (UTC)))



David Tan氏  
(PRATT & WHITNEY)

MRO WGのIAQG内での位置づけについて紹介された。またアジア太平洋地区では合計174のサイトが9110認証を取得していることが紹介された(うち、日本は4。最も多いのは中国の40)。インドや韓国においては、空軍のサイトも含まれていることが報告された。

現時点における9110改正日程について共有され、2026年内にD改訂発行予定であることが示された。これはISO9001改正日程の影響を受けているものである。

(g) 国際スペースフォーラム分科会  
(立岡 啓人APAQG スペースフォーラム  
リーダー (日本電気株式会社))

APAQGスペースフォーラム(以下、SF)ジャカルタ会議では、過去最多6カ国38名の参加があった。主に、SFの環境分析並びに活動



立岡氏  
(日本電気株式会社)

計画の検討、各国共有として日本からはIAQG SF活動の近況共有や、開催国のインドネシアからはBRIN(インドネシア宇宙機関)や宇宙関連企業に参加頂き、同国における認証規格/要求類適用状況を含め宇宙開発や宇宙利用の紹介がなされた。また、関係強化機能であるSFにおける主要な活動テーマの一つとして、アジア太平洋地区におけるIAQG/APAQG活動のプロモーション活動があり、2024年11月開催(於:オーストラリア パース)のアジア太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF-30: Asia-Pacific Regional Space Agency Forum)への参加や展示を通して、各国ステークホルダーとの関係構築並びにニーズ汲み取りが出来たことが報告された。

評議会では、APAQG内から継続的かつ多数のSFへの参加がある状況を受け、APAQG SFをより組織的に機能させるため、各国参加組織に対し今後の更なる関係強化の呼びかけを行った。

なお、立岡氏は今回の会議をもってSF主査交代となるが、昨年春のブリュッセル会議では表彰を受けるなど目覚ましい活躍をされた。これまでの貢献に対して敬意を表したい。



前日に行われたAPAQGスペースフォーラム会議の様子

#### (h) 規格要求分科会活動報告

(白井 達矢 IAQG規格要求チーム APAQG  
リーダー (川崎重工業株式会社))

IAQG 規格開発を管理するIAQG-1 SMC (Standards Management Committee: 規格管理委員会) の体制、規格開発・改訂作業の概要及び、各IAQG規格の改訂作業状況・見直しの予定が紹介された。SMCの下で規格毎の



白井氏  
(川崎重工業株式会社)

開発/改正作業を担当する作業チームについては、チームリーダーに加えて、IAQGメンバーが多く担当するセクター代表が紹介された。また、規格発行に関して現在IAQGが構築を進めているSingle SDO (Standards Development Organization) の枠組みに基づき、9100シリーズ規格、9104シリーズ規格等の主要な規格を含む多くの規格について、各規格の作業チームが開発/改正作業を進めていること等が紹介された。

白井氏は今回の会議をもって後任にこの役を譲ることになっている。長期間にわたる本活動への貢献に対して敬意を表するとともに、次のステージでの更なるご活躍を期待する。

#### (i) 9100規格チーム活動報告

(西口 潤 9100 APAQG SDR  
(Sector Document Representative)  
(三菱重工業株式会社))

前回のAPAQG会議からのIAQG9100チーム体制変更 (アジアは変更なし) 及びAPAQG



西口氏  
(三菱重工業株式会社)



Jeffrey Ho氏  
(Association of Aerospace Industries (Singapore))

9100チーム体制が紹介された。また、IA9100規格改正が適切なステップで行われているかを検証するため、各セクター（米／欧／亜）から2名ずつの計6名による独立レビューチームが2024年5月に立ち上げられ、2025年1月に活動が完了。結果として、製品品質向上に寄与する要求事項にすること、現在IA9100修正案に追加された、組織文化、倫理、情報セキュリティ関連の要求事項は製品品質に直接影響がないことから再評価するよう、提案があったことが報告された。

IA9100規格の発行スケジュールは、ISO9001改正（2026年9月発行予定）を考慮に入れながら、IAQG9100チームで引き続き検討していくことが共有された。

(j) 9150規格チーム活動報告  
(Jeffrey Ho氏 IAQG 9150チーム  
(Association of Aerospace Industries  
(Singapore)))

9150チームのJeffrey Ho氏より、最近関心の高い9150規格（中小規模組織向けの認証規格）の最新状況について報告があった。9150規格のタイトル案、現時点では規格開発の初

期段階にあることが示された。

(k) PSCI製品及びサプライチェーン改善分科  
会活動報告  
(Zuozheng Lou氏 IAQG PSCIチーム  
APAQGリーダー（COMAC社）)

今回Lou氏はオンライン参加である。IAQGおよびAPAQGのPSCI（Product & Supply Chain Improvement）チームの組織図の紹介に始まり、SCMH（Supply Chain Management Handbook）の最新発行状況について以下のように報告された。

前回の総会（GA：General Assembly）以降に2つのSCMHが発行され、さらに2つが近日中に発行される予定であり、加えて10のSCMHトピックが開発中である。

また、SCMHの利用状況について、もっとも多くダウンロードされているのはSCMH 7.2.3 Aerospace APQP PPAP Manual Rev B（APQP：Advanced Product Quality Planning先行製品品質計画、PPAP：Production Parts Approval Process生産部品承認プロセス）、次いでSCMH 3.2.1 Aerospace 9102 First Article Inspection Requirements Guidance Rev Newで

あることが報告された。

また2月にSCMHのウェビナーが開催され、間もなくオンラインで視聴可能になるとの紹介があった。

#### (I) 各国／地域のステータス報告

評議会で報告された国／地域のステータスは以下の通りである。

##### ア 韓国

Bohyun Kim氏（LIG Nex1社）より、KAQG（Korean Aerospace Quality Group）の組織図、活動報告がなされた。韓国国内の9100認証取得組織の全体のおよそ6割にあたる443組織が、AS/EN9100からKS Q 9100（韓国語版）への移行が完了しており、引き続き移行を推奨しているとの報告がなされた。

エンジンの品質保証規格であるAS13100や宇宙の規格であるECSSの訓練コースを展開していることが紹介された。また、2025年に韓国で企画されている航空宇宙イベント（Seoul ADEX 2025）に関する紹介があった。



Bohyun Kim氏  
(LIG Nex1)

##### イ 中国

Jinfeng Geng氏（AVIC社）より、CAQG（China Aerospace Quality Group）活動の紹介がなされた。2025年春より、Haibo Qu氏（AVIC社）がCAQGリーダーとなったこと、CAQGは国内CB（Certification Body：認証機関）やCAAC（Civil Aviation Administration of China：中国民用航空局）と密接に連携した活動を行っていることが紹介された。

また、CAQGはSCMHや9100シリーズ規格の開発についても積極的に活動を行っており、SCMHには12名、9100シリーズ作成チームには5名が参加している。



Jinfeng Geng氏  
(AVIC)

##### ウ 日本

高橋JAQG幹事長（株式会社SUBARU）より、JAQGの活動について以下が報告された。

Single SDOについては特に著作権や翻訳プロセスについて検討を継続していること、IAQGから提示された翻訳に関する合意文書に関しては特に注意して検討をしていること、各ステークホルダー（JAXA（宇宙航空研究開発機構）、JMOD（防衛省）、

METI（経済産業省）等）との緊密な関係構築を継続していることを報告した。また、SJAC9120の国内認証の再開についてはJRMC（Japan Registration Management Committee：航空宇宙審査登録管理委員会）を支援して取り組んでいることも報告した。

今回は、各WG（Working Group）・勉強会の活動内容報告と、ベストプラクティスについて、以下を紹介した。

- ①JAQGメンバー（出席者220名）を対象として、活動報告会を実施し、最新の情報を共有
- ②規格検討WGで 翻訳に取り組んでいたAIMM V1.1（日本語版AIMM：Aerospace Improvement Maturity Model）がIAQGのサイトで公開された
- ③SCMH WGで、今年度は3回のウェビナー方式によるSCMHの説明会を実施
- ④特殊工程WGによるNadcap ACチェックリスト日本語版を7件発行
- ⑤スペースフォーラムによるAPRSAF-30の実施



高橋 JAQG幹事長  
（株式会社SUBARU）

## エ インド

オンライン参加のVijay Prajapati氏（TASL社）よりInAQG（Indian Aerospace Quality Group）の活動について報告された。

インド国内では9100シリーズを取得した組織が1350以上となっていることが報告された。InAQGのメンバーは約120であり、現在500以上の会社にメンバー参加を呼び掛けているとの紹介があった。

今回の大きな話題の一つは、インドにおいてICOPスキームが設立されたことである。インドはAPAQGメンバーであるが、国同士の関係性などから、英国RMSの支援によりICOPスキームが立ち上がったため、現時点ではEAQG管理下に置かれている。今後APAQGに移管されることが予定されているが、初めてのケースのため、関係者全員の注力が必要不可欠と思われる。

## (m) Early Careerプロジェクト

上原氏（川崎重工業株式会社）より、以下の報告がなされた。

Early Careerプロジェクトは、2024年より参加者がIAQGの各種活動に関与する端緒となる機会を提供することを目的として、現在IAQGで活動中のメンバーを指導員（Mentor）と参加者（Trainee）のペアを作り、指導員から提供される実際のIAQG活動の作業の一部を手伝うという形式としている。

2024年参加者からは、活動のまとめとして指導員の手助けやIAQG最新情報の入手、英語での発表機会が成果として報告された。

本会議では2025年参加者の顔合わせを行ない、日本、韓国、インドから計6名がそれぞれ自己紹介をした。今後、月1回のWeb会議で各人がそれぞれIAQG活動状況を情報共有する中でネットワーク構築とエンゲージメント向上を目指す。9月のAPAQGでは前半



Early Career Project参加メンバー

6ヶ月の成果と後半6ヶ月の作業計画を報告予定である。

#### (n) 新メンバーの紹介

冒頭で示した通り、エアバス・インドアとGFMエアロアジア新規加盟メンバーとして迎えられた。

### 3. APAQG PromotionおよびIndustry Session for Host Country

今回、APAQG会議開催前日にAPAQG Promotion活動を実施した。現在インドネシアにはIAQGメンバーはIAe社の1社のみであるため、この機会にインドネシア国内の航空機産業向けにPromotionを実施し、IAQG/APAQG活動への参加を促すためである。

同じような目的でAPAQG会議最終日の午後Industry Sessionと称するイベントを開催した。それぞれについて以下に報告する。

#### 3.1 APAQG Promotion Event

約70名の参加を頂いたPromotion Eventは、インドネシア政府（Kementerian Perindustrian：日本の経産省に相当）と今回のホストであるIAe社のディレクターのあいさつに始まり、APAQGリーダーの上原氏よりIAQG/APAQGの概要について説明したのち、白井氏（川崎重工業株式会社）よりIAQG規格の説明、小薬氏（株式会社IHI）よりICOPスキームについての説明、西口氏（三菱重工業株式会社：当日はオンライン参加）およびDavid Tan氏（Pratt & Whitney社）より9100規格および9110規格の最新状況について説明を行った。参加者からは規格の変更やEthics（倫理）の考え方について質問が出るなど、活発なイベントとなった。

昼休憩をはさみ、午後はBuilding standardization and competencies to enter the global supply chain（グローバル・サプライチェーンに参入するための標準化と能力の構築）という議題でパネルディスカッションが行われた。



Mahardi Tunggul Wicaksono氏  
(Ministry of Industry)



Dena Hendriana氏  
(IAe)



Promotion Event会场の様子



パネルディスカッションの様子  
左：Ridlo Akbar氏 (Airbus Indonesia)  
中央：Luthfi Nur Amalia氏 (IAe)  
右：Landry Subianto氏 (Boeing Indonesia)

パネルディスカッションについては全編インドネシア語で行われたため、その場では何が議論されているのか全く理解できなかったが、後日、翻訳ソフトの力を借りて以下のような内容であったことが分かった。

- インドネシアの企業が航空宇宙製造市場に参入する際の課題と機会について議論した。
- インドネシアにはAS9100認証取得企業が20数社しかない一方、隣国（マレーシア）

には数百社がいることが指摘された。

- インドネシアの航空宇宙産業の発展を支援するための国家プログラムを作成する重要性を強調し、マレーシア、シンガポール、中国などの成功したモデルと比較した。

なお、政府支援については次に述べるIndustry Sessionにおいても活発な議論があった。



APAQG Promotion Event参加者

### 3.2 Industry Session for Host Country

IAe社が主催し、インドネシアの航空宇宙防衛産業の発展や品質活動の向上を目的として開催された。インドネシア国内の航空関連企業やAPAQGから30名ほどが出席。上原氏（APAQGセクターリーダー、川崎重工業株式会社）よりIAQG/APAQG/JAQG及びICOT/APCOT/JRMCの組織及びその役割、城福氏（SJAC）よりSJAC/JAQGの組織及び設立経緯、鈴木氏（株式会社SUBARU）よりRMC構築に関してICOPスキームの説明（含むRMCの役割）及び韓国RMC立上げの経緯について、説明を行った。インドネシア関係者からは、SJACが機体構造と装備品、製造とMROという異なる事業を1つの組織とし

て運営することになった経緯や、SJAC/JAQGの組織運営における政府・政策等との関係（予算支援事業の枠組み等）について活発な質問があり、インドネシアの航空宇宙防衛産業の発展に対する熱意やその発展のために必要な政府との関係構築に対するヒントを模索している様子を強く感じられた。

会議後もインドネシア側の関係者同士で活発な議論が行われており、まずはインドネシア国内にSJACのような業界団体を設立したいという強い希望があるように受け止めた。



Industry Session for Host Country参加者



事務局への心遣いとして立派な盾を頂いた（プロジェクト消せば良かったと後悔）  
左：Luqman氏（IAE）と城福氏（SJAC）、右：Cecep氏（IAE）と服部氏（SJAC）

#### 4. おわりに

今回の開催地であるインドネシアの人口は近年増加を続けており現在は3億弱である。首都であるジャカルタは温暖化の影響を受けて浸水被害が毎年ひどくなっており、ヌサンタラへの首都移転が計画されているが、それでもジャカルタ市内では地下鉄延伸工事が行われていたり、観光客を誘致しようとしたりするなど、さすがに東南アジアを代表する大都市である。一方で中心部のビル群を抜けた先にはスラム街が広がっている光景も見られ、貧富の差がありそうな印象を受けた。

現地の気温は約30度、湿度80%とのことであったが、日本の少し暑い程度の夏という感

じで、不快な暑さではなかった。冒頭で述べたがラマダン期間中の訪問となり、市内にはラクダを模したオブジェ（イスラム教は中東起源なので、原点回帰・想起するという意味があるらしい）があったり、夕方6時になると太鼓や音楽でその日の断食明けの食事の開始が知らされたりと、貴重な経験をする事ができた。

APAQG会議はアジア太平洋地区内を持ち回りで開催しているが、全世界的に使用される品質管理の規格を開発、普及するにあたり、文化あるいは宗教に根差した生活様式の違いについて百聞は一見に如かずと感じた。



ジャカルタ市内から空港に向かう車中にて



ラクダ (ホテル内)

ラクダ  
(市内レストラン入り口)

さて、年に2回、定期的に開催しているAPAQG会議について、前回2024年秋に東京で開催した際はJA2024（国際航空宇宙展）やIAQG会議との連続開催により短縮日程となったため、1年ぶりのフル会議となった。

やはり面会して話をするのは良いものである。今回はインドネシア現地企業を招いてのイベントもあったため、盛り沢山であり内容の充実した印象であった。

アジア・太平洋地域におけるIAQG活動は

長年日本がリードしており、APAQGのリーダー、サブリーダーとも日本人が担当しているが、近年中国やインドの存在感が増しており、認証機関の数では日本を引き離しつつある。インドでは新たにICOPスキームが設立されるなど、アジアとしてはますます活況を呈しているところ、日本としても、引き続き品質では先頭を走るべく本活動を活発に行う所存である。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 城福 隆司〕